

Feature
特集

山陰インド協会創立10周年特集号

記録写真でつづる10年の歩み



The Sanin-India Association

山陰インド協会

祝 創立10周年

山陰インド協会事務局

〒690-8668 松江市殿町383 山陰中央新報社内

TEL.0852-32-3481 FAX.0852-32-3517

<http://www.sanin-chuo.co.jp/india/>



Feature
特集

記録写真でつづる 10年の歩み

山陰インド協会は今年6月、創立10周年を迎えます。
記念事業として、これまでの活動を振り返る特集号
「記録写真でつづる10年の歩み」を制作いたしました。
写真の大半は協会事務局の撮影ですが、
山陰中央新報社撮影や提供写真も一部含まれています。

ドービーガードと呼ばれる屋外洗濯場の向こうには高層マンションが林立する(2014年11月、ムンバイで)



山陰インド協会 会長

松尾 倫男

株山陰中央新報社代表取締役社長

山陰インド協会は今年6月14日をもって創立10周年を迎える運びとなりました。これもひとえに日印両国の外務省、大使館、総領事館、JETRO(日本貿易振興機構)、JICA(国際協力機構)をはじめ、島根、鳥取両県知事、国会議員、在日インド商工協会長など名誉役員の皆様の温かいご支援のたまものごぞいます。ここに心より感謝を申し上げます。

協会は2013年6月、世界的なインド哲学・仏教学者である故中村元氏を顕彰する中村元記念館の開館をきっかけに、主に島根、鳥取両県境を挟んだ中海・宍道湖圏域の産官学が結集する団体として船出しました。以来10年間。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大で20年から2年間は大きな影響を受けましたが、一貫して中海・宍道湖・大山圏域市長会、同ブロック経済協議会、松江市、島根大学、中村元記念館、JETROなどと連携しながら各種事業を展開。在インド日本政府関係者から「日印間の地方間交流では山陰地方が突出して進んでいる」との評価も聞かれるほどとなりました。

国連は4月、インドの人口が今月末までに推計14億2577万人に達し、中国を抜いて世界最多になる、と発表しました。一方、インド国内では近年、大学生など若年層の就職難が顕在化。海外就職を目指す学生たちも増加傾向のようですが、インドが持つ豊富な人的資源が、人手不足が深刻化する山陰企業にとっての救世主となり得るのでしょうか？インド人学生がインターンシップを経験し、圏域就職につなげる現在の「インド人材受入・企業連携事業」をいかに拡大するのかも、巨大インド市場の魅力を取り込む活動の重要ポイントになりそうです。

国連は4月、インドの人口が今月末までに推計14億2577万人に達し、中国を抜いて世界最多になる、と発表しました。一方、インド国内では近年、大学生など若年層の就職難が顕在化。海外就職を目指す学生たちも増加傾向のようですが、インドが持つ豊富な人的資源が、人手不足が深刻化する山陰企業にとっての救世主となり得るのでしょうか？インド人学生がインターンシップを経験し、圏域就職につなげる現在の「インド人材受入・企業連携事業」をいかに拡大するのかも、巨大インド市場の魅力を取り込む活動の重要ポイントになりそうです。

協会は今年度、4年ぶりの経済視察団派遣や圏域市長会と共同で取り組むインドビジネスに対する初めての企業アンケート実施を事業計画案に盛り込みます。コロナ禍の沈静化に伴い、「停滞」から「再開」へと動き出します。「継続は力なり」とばかり、私たちの挑戦は続きますが、引き続き、皆様のご理解ご支援、ご協力をお願いします。

2023年6月吉日

(写真 上 リョウジヤセン 釈迦が説法した地で祈る松尾会長=2018年10月、ビハール州の霊鷲山で)



聖なる大河・ガンジス川から望む日の出(2019年11月、バラナシで)

ガンジス川の早朝風景。動画はこちら▶



2013年度 (平成25年度)

●2013年 11月2日～9日

第1次インド経済視察団(古瀬誠団長、21人)
在インド日本大使館、JETROニューデリー、
インド商工会議所(FICCI)、インド政府・商工省
産業政策促進局、外務省、観光省、チェンナイ
AOTSなど視察。

●11月5日

島根大学(小林祥泰学長)がインド科学大学
(バンガロール)と学術交流協定に調印

●2014年 2月17日

元駐印日本大使の堂道秀明JICA副理事長
が溝口県知事、古瀬名誉会長らと懇談

●3月2日～3日

在インド日本大使館の八木毅駐印日本大使
が山陰入り
溝口善兵衛島根県知事らと懇談。八木駐印日
本大使は「大使館として山陰-インド間の日印
交流を全面的に支援する」と約束。



上皇上皇后両陛下が皇太子夫妻時代(1960年)に植樹された菩提樹の前で八木毅駐印日本大使とともに記念撮影する視察団(13年11月、ニューデリーの日本大使館公邸で)



インド商工会議所メンバーと話し合う視察団(13年11月、ニューデリーで)



インド政府関係者と話し合う視察団(13年11月、ニューデリーで)



オートリキシャ(オート三輪タクシー)が行き交い、混とんとした表情を見せる市街地(13年11月、アグラで)



インド政府関係者と話し合う視察団(13年11月、ニューデリーで)



成長が続くインドのIT産業(13年11月、チェンナイで)



平日でも混み合うマーケット(13年11月、ニューデリーで)

2015年度 (平成27年度)

●2015年 5月26日

15年度定期総会を開催
協会インド支部開設を決定。
初代インド支部長に境港出身でインドニューデリー在住の二宮祐さん(ゼンリンインド支部長=写真)を承認。



●11月2日～9日

第3次インド経済視察団(古瀬誠団長、24人)
在インド日本大使館、JETROニューデリー、ケララ州・新田セラチンインディア、スパイス製造会社などを視察。

●11月10日～13日

INJACK(印日商工会ケララ)のバラクリシュナ会長ほか10人が来日
「Rubyワールドカンファレンス2015」に合わせて来日。Rubyの技術者を育てる「国際Ruby研修センター」をケララ州コチ市の日本ケララセンター内に開設する方針を明らかに。

●12月11日

圏域市長会とケララ州、ブロック経済協議会とINJACKがニューデリーで経済交流拡大に向けた覚書(MOU)を調印
ワドワ元駐日インド大使夫妻がゲストで出席。

●12月12日

安倍首相、モディ首相に覚書調印報告
ケララ州との調印を終えた松浦市長会会長と古瀬ブロック経済協議会会長がニューデリーで首脳会談を前にした安倍首相、モディ首相に面会し、覚書の調印報告。覚書調印が共同声明に盛り込まれ、ファクトシート(公文書)に記載されたことで、日印両政府が公認した覚書となった。

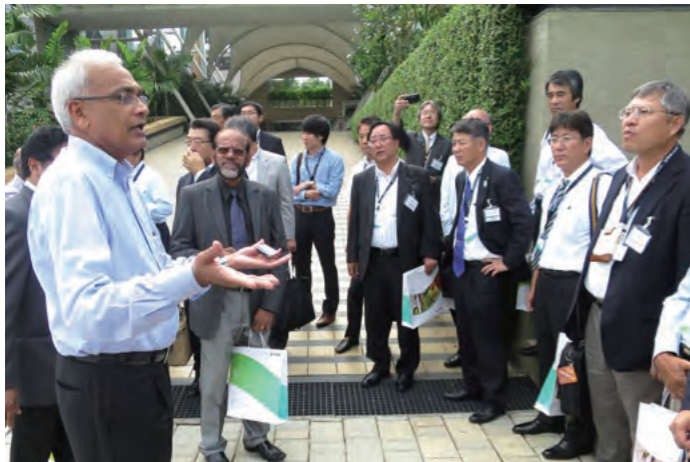
●2015年～

ODA(政府開発援助)を活用したJICAの中小企業海外展開事業

松江市の総合建設業・松江土建、境港市の総合リサイクル業・三光、米子市の水処理業・大成工業の3社が、独自技術を生かしてJICA事業の採択(案件化調査)を受けた。松江土建は高濃度酸素水を供給しながら効率よく水質を改善する「WEPシステム」。三光は、エブリプラン(松江市)、大成工業とともに生ごみや汚泥を堆肥化する大型コンポスト製造装置、大成工業は汚水を流さず電気もいらぬ「環境に優しいトイレ」のそれぞれ普及を目指す。



ケララ州政府、INJACK(印日商工会議所ケララ)と覚書を交わして記念撮影する中海穴道湖大山圏域市長会会長の松浦正敬松江市長と同圏域ブロック経済協議会会長の古瀬誠山陰インド協会名誉会長。中央は、橋渡し役を務めたワドワ駐日インド大使(15年12月、ニューデリーで)



スパイス会社から話を聞く視察団メンバー(15年11月、コチ市で)



新田地拉チンインディアから話を聞く視察団メンバー(15年11月、コチ市で)



在インド日本大使館の八木毅駐印日本大使とともに記念撮影する視察団(15年11月、ニューデリーの日本大使館公邸で)



安倍首相、モディ首相とともに記念撮影する松浦会長、古瀬会長。中央は萩生田(はぎうだ)光一内閣官房副長官(15年12月、ニューデリーで)



調印式には国内外のメディアが訪れて取材した(15年12月、ニューデリーで)



ケララ州で行われている三光の調査事業



独自の汚水処理技術で事業を展開する大成工業



「国際Ruby研修センター」設立構想を発表するINJACKのバラクリシュナ会長ら(15年11月、松江市内で)



松江土建が持つ高濃度酸素水供給装置「WEPシステム」



ケララ産業展「Kerala B2B Meet 2017」の開会式ではケララ伝統芸能が披露された(17年2月、コチ市で)



松江土建の責任者と話すINJACKバラククリシュナ会長やケララ産業展実行委員会のK-BIPのラジャゴパルCEO(17年2月、コチ市で) マッサージチェアを体験するケララ州政府のMoideen産業大臣(17年2月、コチ市で)



ターバンを試着した経済視察団メンバー(17年1月、ニューデリーで)



毎日数万人分の食事が無料で提供されているシク教寺院(17年1月、ニューデリーで)



ケララ産業展オープニングでケララ州政府と記念撮影する山陰インド経済視察団関係者(17年2月、コチ市で)



インド象の模型が出迎えるケララ産業展会場入り口(17年2月、コチ市で)

2016年度 (平成28年度)

●2016年 5月25日

16年度定期総会を開催
17年2月、ケララ州で開催される産業展「Kerala B2B Meet 2017」への出展について圏域市長会との共催事業として取り組むことを決めた。

●2017年 1月18日

「KeralaB2BMeet2017」への山陰ブース出展決定
出展スペース確保が難航していたが、在インド日本大使館からケララ州政府への協力要請などで解決。展示スペースの確保が決まった。

●1月

インドケララ州からの「IT人材受入・企業連携事業」がスタート
島根県、松江市、島根大学、山陰インド協会など官民12団体が構成する実行委員会が主催。ケララ州から来日したITエンジニアや理工系学生11人が、IT企業で就業体験(インターンシップ)やRuby技術者研修を受けた。

米加工食品の製造販売・アルファー食品(出雲市)がJICA基礎調査で採択
ケララ州内の食品加工会社や流通業者へのヒアリングを通じて現地生産・販売への可能性を探る。

●1月27日

ケララ州コチ市の日本ケララセンターに「グローバルビートレーニングセンター」が開所

●1月29日～2月5日

第4次インド経済視察団(代表=圏域市長会会長岡秀人出雲市長、団長=古瀬誠代表、19人)
圏域市長会と山陰インド協会合同で派遣。在インド日本大使館、ケララ州・ケララ産業展オープニング式典など。

●2月2日～4日

覚書1周年記念でケララ産業展「Kerala B2B Meet 2017」に山陰ブース初出展
圏域市長会がケララ州との覚書1周年を記念してケララ産業展にブースを確保。JICA事業を展開中の松江土建、三光、大成工業に加えて大山町に工場を構えるマッサージチェア製造のファミリーイナダ(本社・大阪市)の4社が出展した。インド国内をはじめ中東やアフリカなど33か国から1500人を超すバイヤーが訪れ、山陰の技術に高い関心が寄せられた。



「グローバルビートレーニングセンター」開所式であいさつするRuby開発者のまつもとさん(17年1月、コチ市で)

2017年度 (平成29年度)

●2017年 5月23日

17年度定期総会を開催

●9月22日

奥出雲町の東京五輪キャンプ誘致委員会がホッケーインドチームのキャンプ誘致誘致委員会がチノイ駐日インド大使に面会。インドナショナルチームのキャンプ誘致への協力を求めた。一方、在大阪神戸インド総領事館のチャングサン総領事が7月、奥出雲町を訪れ、ホッケー場などを視察した。

●10月29日～11月5日

第5次インド経済視察団(古瀬誠団長、17人)在インド日本大使館、JETROニューデリー事務所、ニムラナ工業団地(ラジャスタン州)、日本ケララセンターなどを視察。

●10月31日

松江商工会議所がインドから山陰を訪れるインバウンドプランを提案

松江商工会議所は連携する3商工会議所(尾道、今治、松山)とインバウンドプラン「インドから日本への旅～魅力あふれる山陰・瀬戸内への誘い」を策定。ケララ州などで説明会を開催し、インド人観光客誘致への一歩を踏み出した。

●11月25日

「日印友好交流年」記念として浜田石見神楽社中連絡協議会がインド・オデッサ州で石見神楽公演

●11月27日

ケララ州で「JAPAN MELA」開催(12月3日まで)。AOTSケララ同窓会が創立50周年を迎え、現地で記念事業開催

●12月1日～3日

ケララ州で開かれた日本フェア「JAPAN MELA(日本の祭り)」に参加
松江市の星野芳伸副市長を団長に松江市、市長会、IT企業、島根大学などから22人が参加。産業展では山陰ブース(18㎡)を出展。圏域の紹介やインドから日本に向けたインバウンドの認知度調査を行った。島根大学はコチ理工工大学などと学生交流協定を結んだ。



「JAPAN MELA」BtoB商談会オープニングで挨拶する平松駐印日本大使(17年11月、コチ市で)



平松駐印日本大使に対しインバウンド対策などを説明する古瀬松江商工会議所会頭ら(17年10月、在インド日本大使館で)



提案したインバウンドプラン



日本製品を展示する「JAPAN MELA」オープニングでテープカットする星野松江市副市長(17年12月、コチ市で)



日本製品を展示する「JAPAN MELA」会場内に特設された山陰ブース。来場者にインバウンド対策に向けた観光調査も実施した(17年12月、コチ市で)



在インド大使館の平松賢司駐印日本大使とともに記念撮影する視察団(17年10月、ニューデリーの在インド日本大使館公邸で)



出展したアルファー食品。大変好評で矢野専務も笑顔。(17年12月、コチ市で)

2018年度 (平成30年度)

●2018年 4月1日

JETRO松江(現:JETRO島根)が事務所内にインドとの経済交流窓口「インドデスク」を開設。国内6か所目、中四国、九州地方では初めて

●2018年 5月30日

18年度定期総会を開催

●6月29日

山陰インド協会とJETRO松江(現:JETRO島根)が覚書を締結

山陰-インド間のビジネス強化支援が目的。経済視察団派遣やインドセミナー開催など多方面で相互支援協力をを行う。

●8月～

松江市と奥出雲町がインド人の女性国際交流員を採用

ケララ州との経済交流に力を注ぐ松江市がケララ州出身のアールティ・ダースさんを、東京五輪のインドホッケーチームのキャンプ誘致を目指す奥出雲町がニューデリー出身のグルン・エナさんをそれぞれ採用。

●10月3日～9日

松江商工会議所がインドからのインバウンドモニターツアーを実施

ケララ州の旅行会社ツアー企画担当や雑誌記者ら6人が松江城や出雲大社などを訪れ、松江を組み入れた旅行商品化の道を探った。

●10月28日～11月3日

第6次インド経済視察団(古瀬誠団長、17人)

在インド日本大使館、JICAインド事務所、デリバリー専門寿司店、ブッタガヤ、ケララ州などを視察

●11月2日

ケララ州に災害見舞金を贈る

モンスーン豪雨災害で数百人の死者が出るなど深刻な被害に見舞われたケララ州に対して山陰インド協会は圏域市長会、同ブロック経済協議会と合同で総額約74万円の見舞金を贈った。



松江城の歴史などを質問するモニター参加者(18年10月、松江城で)



JETRO松江事務所が中四国初となるインドデスクを開設(18年6月)



インドスパイス料理研究家の香取薫さん(東京)からインド料理の効能などを学ぶ参加者(18年6月、奥出雲町で)



ケララ州出身の松江市国際交流員アールティ・ダースさん(18年9月)



協会名誉顧問に就任したワドワ元大使(18年10月、ニューデリーで)



INJACKの代表者らに募金を寄託する古瀬誠山陰インド協会名誉会長(18年11月、トリヴァンドラムで)

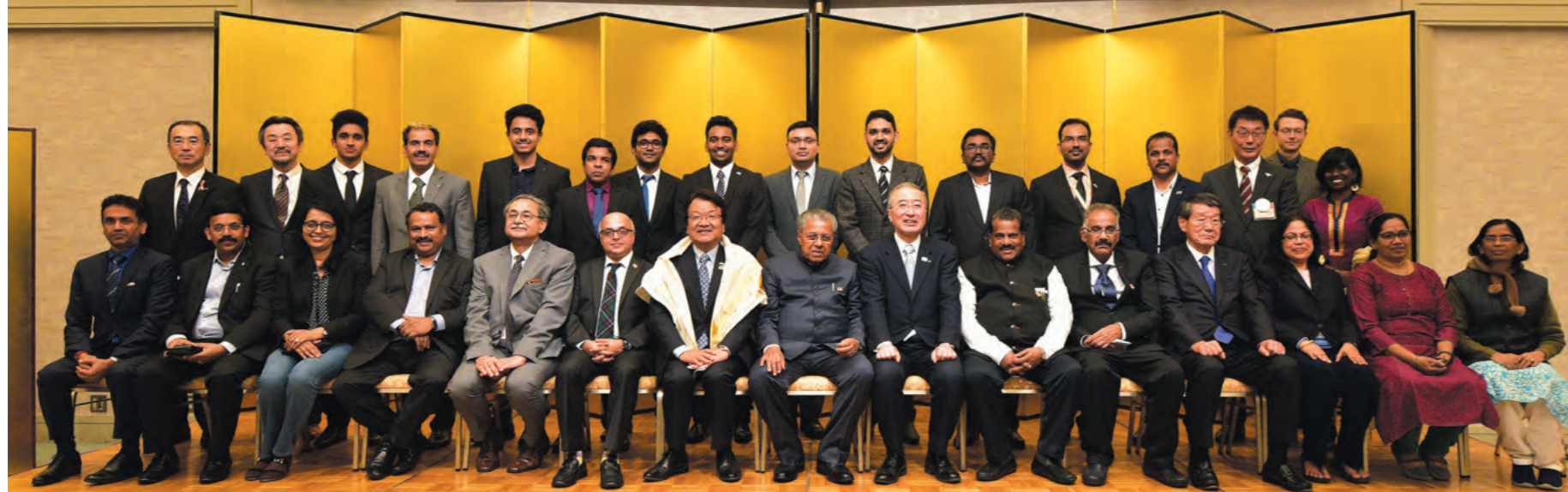


在インド日本大使館の浅利秀樹次席公使とともに記念撮影する視察団(18年10月、ニューデリーの在インド日本大使館公邸で)



JICAインド事務所の松本勝男所長(右から2番目)から現況の説明を受ける視察団(18年10月、ニューデリーで)

Welcome to Lake NAKAUMI, Lake SHINJI & Mt. DAISEN Area !!
Delegation of Kerala State Government led by
Shri. Pinarayi Vijayan, Hon'ble Chief Minister of Kerala
26th November 2019



山陰インド協会主催の歓迎会で記念撮影する関係者(19年11月、松江市のホテル一畑で)



中海・宍道湖・大山園城市長会との会談であいさつするケララ州政府のヴィジャヤン首相(19年11月、松江市の由志園で)



ヴィジャヤン首相と握手をする松尾会長(19年11月、ホテル一畑で)

2019年度 (令和元年・平成31年度)

●2019年 5月31日

19年度定期総会を開催。新会長に山陰中央新報社の松尾倫男社長が就任
任期満了に伴う役員改選で松尾会長を選任した。

●6月14日

奥出雲町キャンプ誘致委員会がインドホッケー女子ナショナルチームと面談
東京五輪への出場が決まったインドホッケーチームのキャンプ誘致を進める奥出雲町キャンプ誘致委員会が広島市内で女子ナショナルチームの監督らと面談した。

●11月12日～18日

第7次インド経済視察団(松尾倫男団長、21人)在インド大使館、JETROニューデリー、マルチスズキンディア社マネサール工場、大成工業JICA事業現地(バラナシ)など視察。

●11月26日～27日

ケララ州首相率いる政府代表団が山陰初訪問
ケララ州のピナライ・ヴィジャヤン首相率いる政府代表団が山陰入り。連携覚書を取り交わしている園城市長会の各市長をはじめ丸山達也島根県知事、山陰インド協会の役員らと懇談した。

●12月6日

南インド人材活用セミナー開催
JETRO松江(現JETRO島根)と松江市、山陰インド協会が主催。JETROチェンナイ事務所次長などを講師に南インド出身者が日本企業に就職しているケースやインド人材受入事業を紹介した。

●2020年 3月～

新型コロナウイルス 世界に急拡大 事業中止相次ぐ

中国で19年末に発生した新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大。インドへの渡航禁止や国の緊急事態宣言を受けて「インド人材受入・企業連携推進事業」が中止となったほかJICAの海外展開事業も一時ストップするなど大きな影響が出た。



大成工業のJICA事業現場を視察(19年11月、バラナシで)



インドナショナルホッケーチームに五輪キャンプ誘致を働きかける奥出雲町メンバー(19年6月、広島のホテルで)



在インド日本大使館の鈴木哲駐印日本大使とともに記念撮影する視察団(19年11月、ニューデリーの在インド日本大使館公邸で)



マルチスズキンディア社のスタッフと記念撮影するインド経済視察団メンバー(19年11月、マネサールで)



JETROニューデリー事務所でインド国内の経済状況などを聞くインド視察団(19年11月、ニューデリーで)



ガイドから説明を受けるケララ州AOTSの一行(19年8月、出雲大社で)

2020度

(令和2年度)



●2020年5月～6月
20年度定期総会は書面決議で開催
新型コロナ感染拡大による国の緊急事態宣言を受け、理事会、定期総会は書面決議で開催。2代目インド支部長に手嶋友長さん(境港出身=写真)が就いた。

●10月29日

オンラインセミナー開催
ジェトロの投資アドバイザーらがオンライン形式で南インドにおける投資環境の現状、企業進出事例などを解説。

●2月16日

第1回山陰-ケララオンラインビジネスフォーラム開催
コロナ禍でも日印間のビジネス機会を創出しようとオンラインフォーラムを初開催。

●2月～3月

インド人材受入・企業連携推進事業オンライン企業説明会開催
新型コロナ感染拡大でケララ州での就職フェア、インターンシップ事業が中止。代替のオンライン企業説明会を開催。

●3月2日

奥出雲町がホッケーインド代表の東京五輪事前キャンプ誘致を断念
奥出雲町は新型コロナ感染拡大に伴う国の感染症対策で受け入れ態勢が整わないことなどの理由で誘致を断念した。

2021度

(令和3年度)

●2021年5月～6月

21年度定期総会は書面決議で開催
新型コロナ感染拡大に伴い理事会と定期総会は2年連続で書面決議による開催。

●11月16日

第2回山陰-ケララオンラインビジネスフォーラム開催
食品加工、竹製品加工などインド企業5社がプレゼン。2月に続いて2回目。

●12月6日～7日

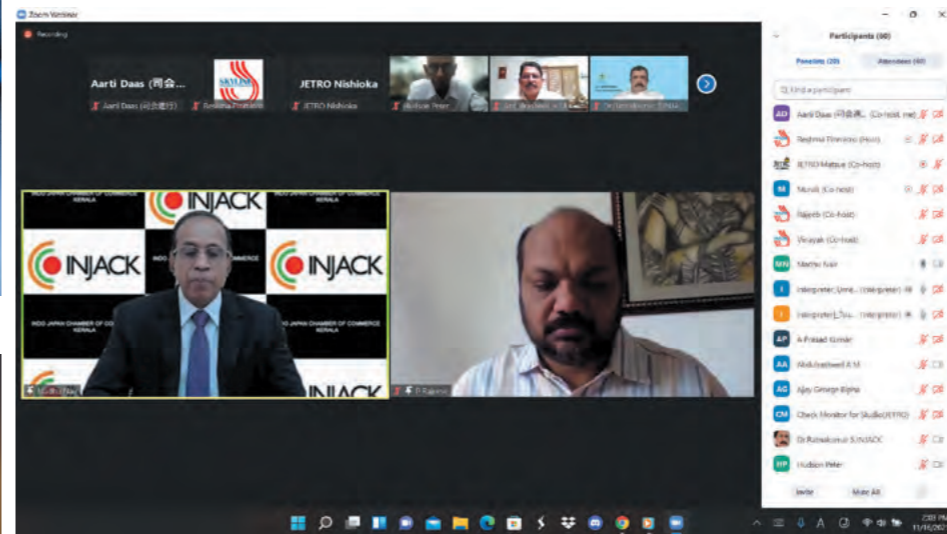
在大阪神戸インド総領事が島根県内各地を訪問

●2022年2月16日

インド人材受入・企業連携推進事業でケララ州の学生たちとのオンライン企業説明会開催
コロナ禍でインターンシップは中止。参加予定だったインド人学生6人を対象に企業説明会や個別面談を実施した。



新型コロナウイルスが感染拡大するインド・ニューデリーの空港に到着した、日本からの支援物資第1便(酸素濃縮器)(21年5月、JICAインド事務所提供)



コロナ禍で開催した第2回 山陰-ケララ オンライン-ビジネスフォーラム(21年11月、松江市内で)



コロナ感染拡大でマスクを着用して歩く人々(20年、コチ市で © Oscar Espinosa / Shutterstock.com)



コロナ禍で開催した第1回 山陰-ケララ オンライン-ビジネスフォーラム(21年2月、松江市内で)



安来節披露のサプライズ演出を受ける在大阪神戸インド総領事館のギリ総領事(21年12月、安来市役所で)



2日、インド・ウッタルプラデシュ州の仮設病院で酸素を吸入する患者ら(ゲッティ=共同)

2022度

(令和4年度)

●2022年 5月13日

22年定期総会。3年ぶりに対面式で開催

総会後、参議院ODA特別委員長の青木一彦参議院議員(協会特別顧問)と外務省国際協力局の秋山麻里国別開発協力第二課長が「日印関係と対インドODA」と題して講演。

●9月29日～11月30日

中村元記念館で並河万里写真展「巡礼～中村元の旅路を巡る」を開催

中村元記念館の10周年記念事業。中村氏と交流があった並河氏が撮影したインド、中国の仏像や風景37点を展示。写真と合わせて中村氏の思いを記した文章を紹介。

●10月13日

山陰・インドビジネスセミナー(ジェットロ島根、圏域市長会、山陰インド協会など主催)を開催
ジェットアジア経済研究所の村山真弓理事らが講演。

●11月26日～27日

インドで出雲ぜんざい振る舞う

出雲ぜんざい学会の渡部稔会長(出雲観光タクシー社長)がインド中央部のマディアプラデッシュ州で開かれた日印交流フェスティバルで出雲ぜんざい500食分を振る舞った。

●2023年 2月7日～17日

インド学生が就業体験。コロナ禍中断を経て4年ぶりに実施

ケララ州の理工系学生5人が東亜ソフトウェア(米子市)とプレイブスタジオ(松江市)の2社でインターンシップ(就業体験)。コロナ禍による中断を経て4年ぶりに実施。インド人学生たちは6日、圏域市長会会長の伊木隆司米子市長に抱負を語った。

●2月24日

インド政府が、中村元記念館にガネーシャ像を贈呈

中村元記念館10周年と日印国交流樹立70周年を記念してインド政府が記念館に財運向上や知恵・知識の神様として知られるガネーシャ像(ブロンズ製、高さ76cm、重さ約70kg)を贈った。

●3月2日～4日

5年ぶり「JAPAN MELA」開催

INJACKが主催してケララ州コチ市で5年ぶり開催。教育や医療などのAIなどをテーマにしたパネルディスカッションや企業ブースが登場した。



5年ぶりに開催された「JAPAN MELA」。開会式にはジョージ駐日インド大使がビデオメッセージを寄せた(23年3月、コチ市で)



日印国交樹立70周年、中村元記念館10周年を記念してインド政府から送られたガネーシャ像(23年2月、中村元記念館で)



10周年記念オープニングセレモニー(22年4月、中村元記念館で)



出雲ぜんざいを振る舞う渡部会長(22年11月、MP州で)



中海・宍道湖・大山圏域市長会の伊木会長(米子市長)と懇談するケララ州の大学生(23年2月、米子市役所で)